



照屋 仁士 議員

タクシー初乗り助成 で交通弱者対策を

答 今後の検討事項とする

問 交通弱者対策として、これまでどのような事業を実施、または検討したか。

総務部長

①外出支援事業、65歳以上在宅で一般交通機関の利用困難な方、60歳以上で下肢が不自由な方、28年度予算額267万円である。②高齢者健康づくり推進事業、ちむぐくる館の送迎福祉バス（月・水・金）、予算111万円である。③障がい者移動支援事業、福祉タクシーを活用、実費負担で1割本人負担、9割町負担、予算額564万円である。④生活路線確保対策補助、路線バスに対する赤字補てん分、90万4千円の実質負担である。特に福祉以外実施していない。

問 安価ですぐにできるタクシー初乗り助成について、タクシー利用で町内あらゆる場所に接続が可能になる。バス路線を利用すると津嘉山を通る国道507号線や東西を走る329号線、新川的那覇市内線バスターミナルなど、大きな3つの拠点

への接続ができれば、町内から町外へあらゆる所に行きやすい問題は採算性だが、車両購入費や新たな人件費もクリアできる。実施している移動支援事業や福祉バスも含めてこのタクシー初乗り助成によって利便性を高める施策になるのではないか。

総務部長

採算性を含めて検討したい。

問 タクシー利用になれば、当然町内のタクシー会社が想定され、売上げとして儲かる。何割かの協力をいただくことも必要ではないか。飲食店や大型ショッピングセンター、いろんな企業に協賛していただける内容になり得る。一方で利用者側は、一層の利便性向上による外出機会の増加と、更に町内での渋滞緩和、消費拡大、様々な効果が期待できる。交通弱者対策だけではなく、様々な観点に広げてどう考えるか。

総務部長

こういった接続交通についても今後検討していく。

集落支援員制度で 自治会活性化を

問 国から1人あたり年350万円の財源も担保されている非常に有利な制度である。本町で制度的に実施ができない理由があるか。

総務部長

絶対にできないというような事業ではない。



送迎バス（ちむぐくる館と各自治会を巡回している）